

# ARPA・K NEWS LETTER 地域計画・建築研究所



石膏の凹型に粘土をつめる作業 このあと1ヶ月間乾燥して、野焼きをした。

## アルバック ニュースレター もくじ

・野焼きによってみんなで烏天狗の陶板壁画をつくったまち	2
・20世紀から21世紀へ日本は何を伝承するか - (1) -	5
・関西学術研究都市調査懇談会10周年	7
・中国東北地方との貿易・交流の取組み	7
・今更、尚更、都市の夜はライトアップだ	8
・夜の勉強会からまちづくりへ	9
・ネットワーク通信②「関西Qの会」	9
・自慢のみやげ物、うまいもの通信②	
「ジャンボイチゴはいかがですか」	10
・旧刊新刊書評「昭和将棋史」	11
・まちかど	12

NO. **29**

## 野焼きによってみんなで烏天狗 の陶板壁画をつくったまち

糸乗 貞喜

雨が降らなかったら

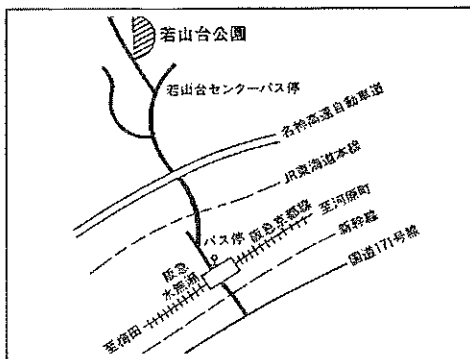
裕次郎がなくならなかつたら

「野焼き」というと、若草山の山焼きのように、春先の山や土手の枯草焼きを思い出す。昨年夏、田村さんから、「炎の祭典・野焼」というイベントの案内をもらったとき、こんな陶器のつくり方があるのか……と思って驚いた。残念ながらその時出席できなかったの、話だけでも聞こうと思っていて、やっとはすことができた。

会って開口一番、「雨で1日延期しましてね。裕次郎がなくなりましてね。新聞にはのらなくなっちゃったんですよ。」という言葉が出た。

もともとこの「野焼き」は住宅都市整備公団若山台団地の完成記念イベントとして企画されたものであり、団地のセールスプロモーションの一環でもあった。そのイベントの話題効果が不十分だったということで、主催者である住都公団関西支社への配慮を、いろいろなプロセスをへて、やってみたかったことをやりとげたのに……という残念な気分が開

所在地地図



口一番の言葉に表われている。とはいえ、この「野焼き」は大成功であった。

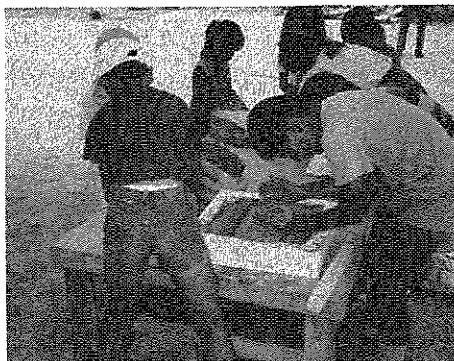
ねらいは、わが町の

アイデンティティをもつこと

若山台は、天王山の麓にある1,500戸の団地である。その完成記念とセールスプロモーション効果とコミュニティの発展に寄与するような、何かイベントができないかということから、この企画は始まった。したがって、この行事のねらいは3つあった。ひとつは、はじめてここで隣人となった人たちのコミュニケーションを進めること、と同時に進んでコミュニティ活動のきっかけになること、さらにこの町に住む人々が自分の町に何らかの“思い入れ”をもつことの3つである。

人々が、自分の住む土地に“思い入れ”をもつこと(アイデンティティをもつこと)はさまざまな効果をもたらす。この“烏天狗”づくりに参加した子供達が、自分のつくったものをいつも見に来ていたというし、ここにペンキを塗ったりする位では起っていない。まちづくりへの参加の中で、町を大切に

皆で心をこめて粘土こめ



する意識も育っていくものであろう。このイベントは、単なる一時的なお祭りでなく、居住者が直接準備段階から長期にわたって参加しつづけることによって、定住促進にも結びつく持続効果をもたらした。

#### 準備期間中の参加者だけで

##### 約500人が集まった

効果も持続するが、準備にも持続的な努力がある。制作プロセスは①デザイン → ②粘土原型制作 → ③石膏凹型制作(50用意した) → ④粘土詰め → 室内乾燥 → ⑤野焼き → ⑥陶板選定 → ⑦野焼陶板設置、という工程をたどる。デザインは若山台団地の裏側にある若山神社の伝説に因んで、鳥天狗をモチーフとした。団地の擁壁にもこのモチーフを使い、足跡のステンレス造形をとりつけた。

陶板の製作は、石膏凹型づくりまでを田村さんの方でつくり、粘土(信楽からもってきた)詰めには団地の方々多数参加していただき、それぞれの思いを込めて粘土を込めた。この参加者が約500人。この粘土板の室内乾燥に約1ヶ月を要し、結局地元の方々の陶板120枚と作家の田村さんが用意した30枚を「炎の祭典」として野焼きした。

写真でみていただくとわかるように、乾燥した陶板を並べて、その上にワラ、小枝、マキをのせ火をつける。外側から土をかぶせて火がまわりやすいように粘土板を並べる



蒸焼きにするようにしながら12時間焼きつづける。この仕事もけっこう大変だったようです。

#### わたしの粘土込めしたのは

##### 割れてしまったが、よくわかった

子供達は思い思いの粘土板をつくった。ドラエモンの好きな子は、そのマンガを描いた。乾燥し、焼き上げ、取り出してみると、うまく陶板になったものも割れてしまったものもある。ある家族は全部割れてしまったが、家に帰って茶碗を見ながら、陶器というものが、「簡単にはできないものだということがよくわかった。」と話し合った。

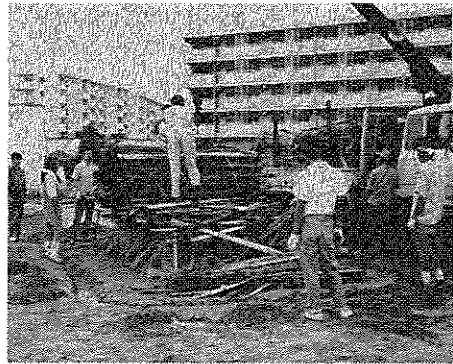
野焼きは一昼夜かかる。野焼のあとでうま

午前 10:30 式典開始

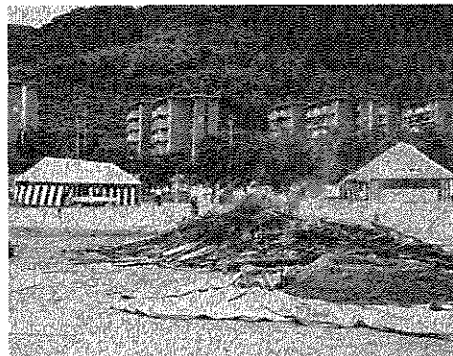
11:00 火入れ式

15:00 式終了

#### 粘土板の上に薪を積んで…



火をつけて、このあと12時間もやしつづける



翌日 0:00 この頃まで野焼き  
 9:00 陶板取り出し  
 夕方 陶板選定

く焼けたものを選んで、デザイン通りにとりつける。そこで田村さんは考えた。せっかく参加してくれたんだから割れたものも使えないだろうか。そして使われたのが完成写真の下側にとりつけられている小さい陶板である。

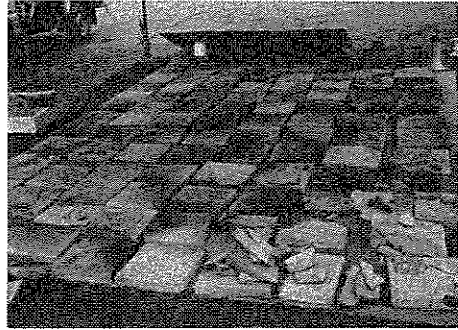
聞いているだけで(私の場合は案内状をもらっただけで)やってみたくなるような話でした。関心のある方は一度見に行ってください。阪急水無瀬駅からバスが出ています。おわりに田村さんのプロフィールを紹介しておきます。(いとりのりさだよし)

**田村 務(たむら・つとむ)**

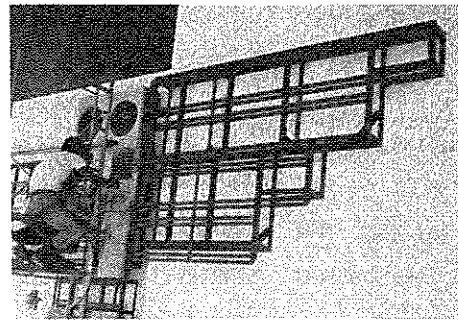
- 1948 大阪市に生れる
- '71 京都市立芸術大学美術学部彫刻科卒業  
大阪彫刻家会議加盟  
「花と彫刻」展出品以後毎年出品
- '72 日本芸術メダル協会加盟以後国際展、国内展毎回出品
- '74 大阪府美術家協会結成加盟以後府美術家協会毎年出品
- '83 FIDEM国際メダル大会(イタリア・フィレンツェ)

- 作 歴 山口県阿武郡福栄村・農業担手育成センター野焼陶板制作「村の四季」  
高校野球センバツ大阪大会準優勝楯制作  
神戸市立博物館外壁ブロンズレリーフ  
「南蛮屏風」制作  
神戸市立博物館正面玄関電鍍レリーフ  
「神戸繁栄図」制作  
「川口誓海頭彰立像」制作  
堺市大仙公園平和モニュメント制作  
弘法大師御入定 1150年 御遠忌大法会東塔完成記念レリーフ制作  
大阪府立夕陽ヶ丘図書館ブロンズ彫刻  
「春の風」制作  
第34回大阪府植樹祭記念ブロンズ彫刻  
「子供ー現在・未来」制作  
第65回全国高等学校野球選手権記念大会事業「白球の森」記念モニュメント  
「青春の栄冠」制作

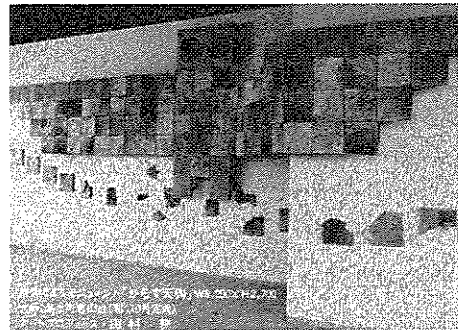
陶板完成、うまくできたのか割れたのか…



壁面へのとりつけ



壁面完成



団地擁壁にとりつけられた天狗の足跡



## 20世紀から21世紀へ日本は何を伝承するか -(1)- アメリカ、ヨーロッパを歩きながら考えた日本の今日・あした

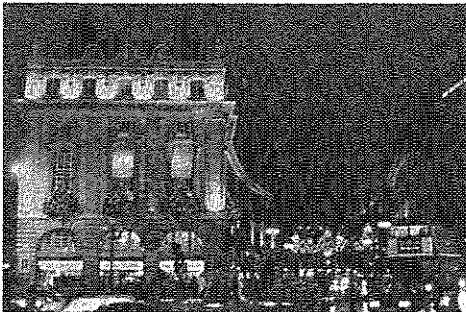
尾関 利勝

### 円高成金、時代遅れの旅

ニューヨークの五番街、ティファニーに入  
ってまるで日本の店に入ったような錯覚を覚  
えた。並み居る客はほとんど日本人。デパー  
トのバーゲン売りに群がるように人気商品  
を買いつめている。応対に疲れ果てた店員さ  
んがアメリカ人であることを除けば、もうこ  
こは日本といってもいい。それもあながち間  
違った事ではなく、このビルのオーナーは日  
本の某不動産会社。回りを見渡せば、日本の  
商社、デベロッパー、金融関係の所有するビ  
ルが幾つもある。このことが随分話題になっ  
ていた。

クリスマス明けのバリ、ロンドン。有名専  
門店はほとんど30~50%以上のバーゲンの看  
板をだしている。そしてどの店にも日本人店  
員もしくは日本語のできる店員さんが、ねこ  
の手も借りたいような忙しさで、日本人客の  
応対をしている。ちなみに12月28日から1月  
3日までの日本発ヨーロッパツアーは1年の  
中でもっとも高い時期にあたる。

時代遅れの笑い話として読んでいただければ  
良いが、ヨーロッパに行ってみて、ごく普通  
バーゲンの看板とロンドン商店街



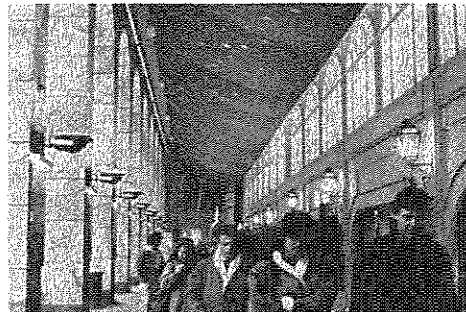
の日本人のヨーロッパツアーの目的は買物旅  
行であり、町の風景や異文化を楽しむのは買  
物のついでということを知った。

昨年の夏と冬、短期間にアメリカとヨーロ  
ッパの調査の機会を得た。それぞれ2週間程  
度の旅で、目的が有ったので、ゆっくり外国  
見物という訳には行かなかったが、海外の町  
を歩きながら、普段何気無く感じていた日本  
のことを考えさせられるいい機会になった。

### 商店街はドイツが楽しい

日本ではアーケードのことを商店街の道路  
の上に懸けた覆いの事をさして言うが、ヨー  
ロッパでは、建物の1階部分を道路からセッ  
トバックさせた通路空間を一般にアーケード  
とよんでいる。日本式のアーケードをイタリ  
アではガレリアと言っている。ミラノのドゥ  
オーモの前にあるガレリアがよく商業雑誌に  
事例として出ている。もうひとつ面白い空間  
がパッサージュで、日本式に言えば通り抜け  
である。イタリアでも見掛けたが、ドイツの  
都市が顕著だった。通りから建物の中や中庭  
を通過して隣の建物や裏通りに連続する通り抜  
けが都心のなかを縦横無尽に網のように張り

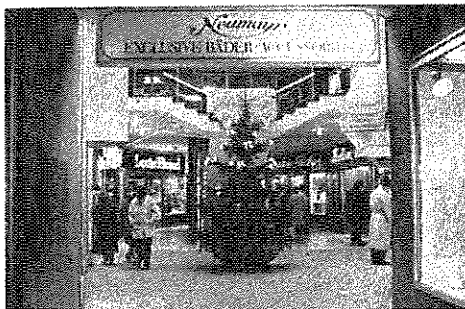
アーケードとは



巡らされている。このパッサージュに面して商店やショーウィンドーがすき間なく張り付いている。アメリカでもヨーロッパでも、お店は大体6時半ころには閉店してしまうけれど、ショーウィンドーはほぼ一晩中ライトをつけていて、商品と値段票が良く見えるように展示されている。ウィンドーショッピングする人は深夜まで絶えず、おまけに町のランドマークになるような、市役所、教会、オペラ座などの建物がライトアップされていて、夜のまちを巡り歩くための演出が見事にととのっている。ハンブルグで銀行の名前の付いたパッサージュがあった。表通りの歩行者専用モールに面して物販店があり、中に続いている。少し入った所にレストランがあり、肝心の銀行はパッサージュの一番奥まった所にある。銀行が閉店してもパッサージュの賑いにはほとんど影響しないような配置になっていた。

日本の商業地や観光地では、私的営業空間がまず優先して、商店街の賑いの連続性は公共空間に依存する場合が多いが、私的な空間の中に賑いの連続性を取り込んだヨーロッパ、中でもドイツの都心商業地の例を見て、町の形の成熟度とともに、私的空間と公共空間のあり方に対する思想の違いを痛感させられた。とにかく何処までも何処までもぶらつければとても楽しい。

パッサージュとは

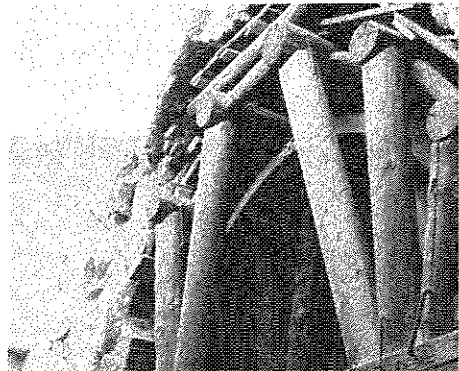


### まちを歩けば博物館に出会う

ヨーロッパの都市を歩くと、美術館、博物館が町の至るところにある。美術館も博物館の一種にあたるが、それも現代、近代、などの時代の違い、彫刻、絵画、工芸などの分野の違いなど様々である。博物館も、歴史、民族、産業、科学、特定の個人などの分野の違い、公共、民間、教会など設置者の違いにより、様々な博物館が見られる。人口数十万人の中規模の都市に世界的なストックを持つ美術館、博物館が複数あり、しかもそのほとんどは都心の中の歩いていける範囲に集まっている。

これらの美術館、博物館は最近造られた物もあるが、その多くは20世紀初頭までのストックをもとに造られている。都心の大半を戦災で焼き尽くされたドイツでは、戦後復元整備された物も多い。その例の一つミュンヘンのドイツ博物館は世界でも典型的な産業科学博物館で、アメリカ・シカゴ博物館のモデルになっているといわれている。ここには土木技術のコーナーがあって、トンネルや橋りょうのミニチュアモデルや等寸のモデルが展示されている。曲がりなりに建設産業に関係する者としていささか感動を覚えた。

### ドイツ博物館、土木技術コーナー



(次号は、日本とヨーロッパ・アメリカのストックの違いについて述べます。)

(おぜき としかつ)



## 関西学術研究都市調査懇談会

10周年

三輪 泰司

昨年6月、国会で特別都市建設法が議決され、関西文化学術研究都市は本格的に、ナショナル・プロジェクトとして踏み出しました。

今年の9月には、いわゆる奥田懇が発足して10年になります。

初めて奥田東先生の上高野のお宅で、「関西研究学園」の構想について、先生のお考えを伺い、「仕掛け」のご相談をしたのは、1972年の2月5日でした。以来満11年になります。

関西文化学術研究都市構想も歴史を記録しておくべき時期にきました。

2月12日から、先生にお時間を頂きまして、岡本道雄先生のおっしゃる「神代」時代から、奥田懇の提言にいたる時期を振り返り、基本理念とその発展を再確認し、さらにこれから「提言」を充実してゆく方向を検討しています。

アルパックにとりましても、学研都市は特別な重みをもっています。地域計画論としては勿論のこと、科学技術に関する研究開発の方法論から、事業推進の運動論にいたる多くのことを学びました。

それと共に、この構想を構築し、事業化へ向かっていささかお手伝いできたのは、創立以来特に南山城を中心とした地域の調査研究から都市施設・建築施設などの計画の幅広い経験を総結集できたからであります。

今年1月の全所研修会では、地域政治についての理論的な学習をしました。いま、或いはこれから、学研都市の計画とそれから打ち出されてゆく科学技術・地域整備などの計画策定に、役立つには、さらに大きくなったアルパックのあらゆる経験を総結集すること、そのコーディネート能力の如何であろうと思っています。

いま「正史」もまとめていますが、アルパックの活動史とその反省も含めて、正史とは別に後世のために、インフォーマルな歴史を綴っておこうと考えています。

「関西学術研究都市調査懇談会10年—奥田東先生と語る」を9月号から始める予定です。

(みわ ひろし 代表取締役社長)

中国東北地方との貿易・交流の  
取組み

金井 萬造

今まで、港湾や港湾都市の計画に取組んできたが、最近では、需要追従型の施設計画から様変わりして、需要創造型の計画に移行しつつある。そこで長期的な見通しに立って、隣国の中国と関西との貿易・交流拡大を図るため、昭和61年、62年と2回中国東北地方を調査する機会にめぐまれた。中国東北地方は、日本よりも広い面積で人口は900万人強、資源は豊富で重化学工業化が進んでいる。

中国入りして、貿易品目の流通経路などを調査してわかったことは、次のとおり。

- 関係機関・関係者の相互交流を定期的に行い、人脈と情報のネットワーク化をはかること
- 物流の実際のシステムや貿易品目などの現状を把握すること
- 相手方の地域振興に一定の協力をするなど、ギブアンドテークをはっきりさせること
- 流通拡大のための流通基地、加工基地開発と一体となって需要拡大を図ること
- 貿易や合併・合作などの企業立地に取組める関係者よりなるプロジェクトチームとしての体制で交渉にあたること

今後10年、20年の見通しで、貿易・交流の拡大が相互地域の利益となるように発展させるため、微力ながら努力したいと思っている。

(かない まんぞう)

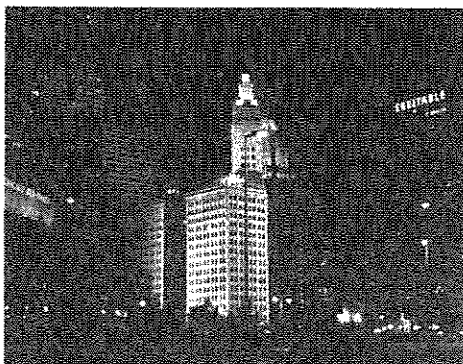
今更、尚更、都市の夜はライトアップだ。 尾関 利勝

こここのころ、各地でライトアップが話題になってきています。オイルショック以来、夜のまちが暗くなっていたが再び明るさを取り戻してきました。

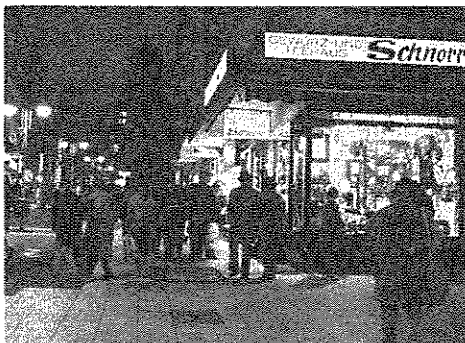
明治の先端技術・電灯照明

日本では、明治の20年前後から電灯が始まりました。名古屋では明治19年にデモンストレーションが行なわれ、22年には電灯会社が開業していますし、京都では25年に市内9カ所でアーク灯が点灯されたのが電灯照明の始まりと言われています。それ以後、各地で行なわれた博覧会などのビックイベントでは必ずと言ってよいほど電飾のモニュメントが使われています。おそらく現代の私達がみるレ

シカゴ



夜のショッピングモール（ドイツ）



ザー光線どころではない大きな感動を当時の人々に与えたことでしょう。

まちの個性を表すライトアップ事例

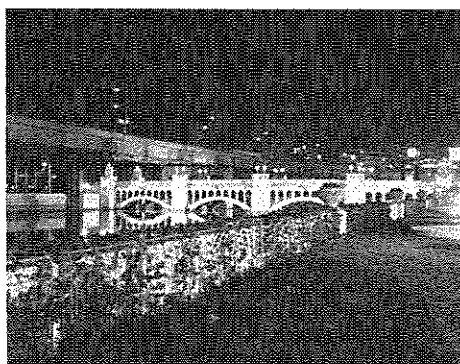
パリはセーヌ。セーヌの観光船バトームシユは船自体が照明体になっていて、夜の町並を照らしていく。遠景にライトアップされた水晶宮やエッフェル塔が浮かぶ様は、まさにパリーはセーヌと思わせる。

コンベンションに力を入れるシカゴ。シカゴ派建築がライトアップされ、現代の超高層の夜景と重なって夜の町並のバラエティーを演出する。

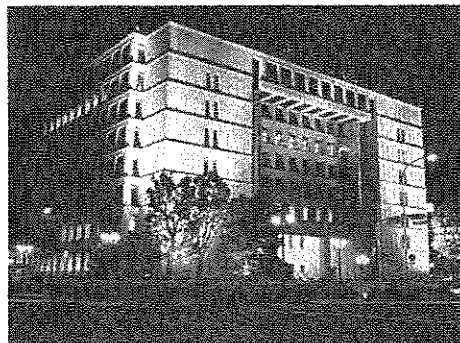
ニューヨーク、マンハッタン。ハドソン河、イースト河に懸かる橋のイルミネーションがニューヨーク市の夜景を彩る。

ハンザ同盟以来の商都の伝統を持つドイツの都市。歩行者モール、アーケード、パッサ

水晶橋（大阪の例）



大阪市役所（大阪の例）





ーजूなどの歩行者空間が町中を網の目のように張り巡らす。これに面した商店のウィンドーは一晚中ライトアップされ何時までもウィンドーショッピングする人が絶えない。そしてまちかどからライトアップされた教会の塔や市役所が夜の町の日印になっている。

### 夜の町を楽しくする

夜の時間が都市に暮らす現代人の生活にとって、重要な意味を持つ時代になってきました。夜の都市空間に陰ではない生活空間、交流空間として明確な表情が求められています。夜のまちの個性化と感動を求めて光の一工夫が尚更重要になってきたと思います。

(おぜき としかつ)

### 夜の勉強会からまちづくりへ

霜田 稔

長岡京文化懇談会という会をつくるきっかけとなったのは、私の住む長岡京市の総合計画の調査が開始され、私もコンサルタントとして参加したことからでした。この計画策定にあたり、長岡京市に住む学者や諸団体代表者で構成する審議会が組織され、意欲的な討論と審議が約2年にわたって展開されたのですが、このなかで、委員のメンバーから、「単に行政のお手伝いをするだけでなく、もっと市民の主體的な討議と勉強の場が必要ではないか」との意見が出てきたのです。その声を長岡京市の歴史的シンボルでもある長岡天満宮の中小路宮司さんに伝えたと、氏が審議会の有志の方たちと相談して、「夜の勉強会」を組織することとなったのです。これが長岡京文化懇談会で、今では市内で事業所を営む人、市外に勤める人、学者、奥様等約70人の多様な人材が集まって活動しています。

今日まで、毎月1回の会食兼小さな講演会を文化論、国際交流、情報化、株市場、韓国

情勢等多彩なテーマで楽しい討論と意見交換をおこなってきています。また夏には天満宮社務所で「夏の宵のコンサート」、12月には「Xマスコンサート」「Xマスパーティ」を開きましたが、これは御婦人達の意欲的な企画力と実行により大成功をおさめ市民の中に市民権を得つつあります。

昨年からは、少しずつ町づくりの勉強会を増やしつつあり、会員の中では、町づくりの実行にむけて何か取り組んでほしいの意見が出ています。そこで、今年は、「まちづくり市民シンポジウム」を開催しようとの声も出ています。

私は、コンサルタントという立場で市の調査・計画に関わる一方、市民の一員として、会員とともにまちづくりへの市民参加を自ら実践するといったことを有言実行していきたいと考えています。考えてみれば、自ら住む町の計画と運動が行えるのも、コンサルタントの楽しみの一つではないでしょうか。

(しもだ みのる)

### ネットワーク通信②

#### 「関西Qの会」

——再開発コーディネーター

のサロンをめざして——

馬場 正哲

#### 【Qの会とは】

関西Qの会は(社)再開発コーディネーター協会の関西でのミニ情報交換会です。

毎月9日か、19日のQの日に弊社の大阪事務所に集まり、ワインやウイスキー、つまみを囲みながらフリーディスカッションを行っています。早い話しが毎月の懇親会です。

発端は、同種の会が、すでに東京で行われていて、大阪でもということで弊社が連絡事務所となり昭和61年9月に発会しました。現在

まで19回を数えています。

【Qの会のシステム】

Qの会は毎回テーマとゲストスピーカーを決めています。当日は、各自の近況報告(自己紹介)に続いて、ゲストスピーカーに約1時間その日のテーマについてお話しをしていただき、全員が質問(Q)を用意してフリーディスカッションを行っています。参加者は毎回14~15名程度で比較的一定しています。

参加する場合は事前の「連絡」と当日の会費(約1,000円)と「名刺」が必要です。この名刺を最後にコピーし配ります。

【テーマによって顔ぶれが違う】

呼びかけは行政や、コンサルタント、建設、不動産、信託会社約80件に行っています。参加されるのは、当初はコンサルタントのメンバーが比較的多かったのですが、「忙しい」宿命のせい、欠席がちとなり、逆に口コミで広がった新人が毎回来られて広がってきているようです。出席が多くなるのは、意外なことに再開発に関係のないテーマで、時流に乗ったテーマの時や、女性のスピーカーの時、に顕著です。

【幅広い交流の場を目指して】

Qの会は、より多くの方の参加によって交流の場を広げて行きたいと考えています。興味のある方は「再開発」にとらわれることなくご連絡ください。(ばば まさあき)  
連絡先: 弊社大阪事務所 06-942-5732

(馬場、松尾、藤井まで)

場 所: 同 上 会議室

時 間: 午後6時30分~8時30分

ジャンボイチゴはいかがですか

山辺 真一

写真のいちごは、佐賀県の中央に位置する多久市で収穫されているものです。

イチゴの名前は、「アイベリー」。現在は関東市場を中心に、贈答用として市場に出されていますので、口にされた方もおられると思います。写真のイチゴは、実の大きさとしでは、中程度で1個80g位ですが、3月も半ばすぎた頃から、1個が100gを越えるものが普通になります。

今年の4月29日から5月の連休にかけて、この「アイベリー」の食べ放題とした観光農園が開園します。全国的にイチゴ狩りで有名なのは、静岡県清水や三島で行われている「石垣イチゴ」「久能イチゴ」などですが、多久市では「アイベリー」を観光農園として売りだすことで、地域の活性化に役立てたいというのが本来の目的です。

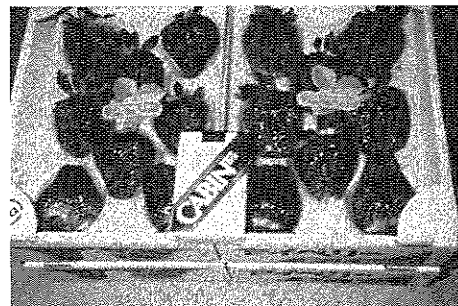
既に、市内の幼児・小学生を対象としてイチゴ狩りの試行も行われましたが、子供たちは、この大きなイチゴに大喜びしたそうです。

このジャンボイチゴを多久市は「観光農業」の柱として、他にリンゴやミカン等の食べ放題も同時に始められる予定です。

ちなみにイチゴ園の入園料は、大人700円、小学生300円の予定です。(やまべ しんいち)  
(問い合わせ先) 佐賀県多久市市役所農林課

TEL (代表) 0952-75-2111

ジャンボイチゴ



## 旧刊新刊書評

## 「昭和将棋史」

大山 康晴著

岩波新書

藤田 武彦

岩波新書から将棋に関するものが出ました。将棋ファンとして喜んでいました。大山十五世名人は「将棋は文化であるかどうか、単なる勝負ごとじゃないか、だから勝てば<sup>1)</sup>いいんだよ、と軽く割り切ってしまう考えもわからなくない……しかし将棋が、人間の英知の生み出したものであり、その中にとけこんで、人間社会の進歩になんらかでも貢献できるものなら、これにすぎる喜びはない」と最後にかかれています。実はこの書評は、このことばからはじめようと思います。

実は私、将棋のタイトル戦となると、大阪福島にある将棋会館に足をはこびます。大盤解説があるためです。行った人ならよくわかると思いますが、会場は黒山の人だかりです。みんな解説にききいっています。またいろんな人がいて、すぐ話をはじめます。他からみるといい大人が無駄なことをしているように見えるかもしれませんが、楽しく無駄をしているからこそ文化的だといわれるのかもしれない。

大山十五世名人がある時テレビでいわれていたことですが、「プロの棋士は自分がこう指して相手がこう指してといった手の積み重ねで局面を考えはしない。自分がこういう局面にしたいと思って課題をとり除く思考をする。」それをきいて、なるほど時間制でやっているからそうなるのかなどと考えながら、さて自分の業務もよく似ていることにも気がつきます。

もう一つ。最近将棋界にも、若い人の抬頭が目立っています。10代～20代の棋士の活躍はマスコミにも広く取り上げられています。



かつてコピー将棋だと若手の将棋を酷評した人がいましたが、大山十五世名人は「ヨーイドン将棋」と呼んで勝ちに向ってしゃにむに突き進む将棋といわれています。若い棋士は多量の棋譜を入手して研究しているといわれていますが、将棋は同一の将棋は指されていないので、1手1手自分の判断が求められます。ある人とこのことを話していたら、情報のことに話がひろがりました。情報は確かに広く収集してひき出せるようにしておく（棋譜をひき出すように）ことは必要ですが、一方で、局面局面で当然のことながら主体的な判断をして新手を発想しないといけない（情報の解析と活動）のだろうという話です。そういえば大山十五世名人も、若い棋士へのことばとして「物の見方、考え方」を鍛えることをいわれています。どうやら情報を単にためてひき出していくプロセスだけでは強くなれないことをいわれているようです。そういう意味では文化的にならないといけないのかなと思います。そんなことを考えながら、この本をゆっくり読み通しました。（この4月から今期将棋名人戦がはじまります。）

（ふじた たけひこ）

## まちかど

### 東京事務所界限報告・その1 築地魚河岸(市場)

糸乗 貞喜

築地の魚河岸へ行ってみたかった。朝7時頃タクシーでいった。「どこへつきますか。もう終わってますよ。外部市場はあっちですが……」。「やっぱり正面につけて下さい」。

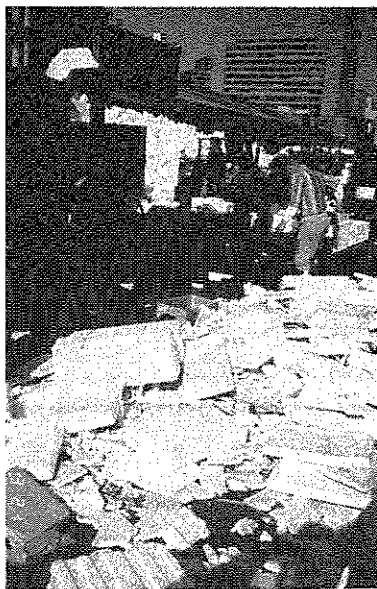
入っていく人はあまりいなくて、出てくる人ばかりだった。入って左よりに物販と飲食の横丁が並んでいた。「とにかく何か喰うか」と思って、ネタのたっぷりしたすしとビールの小ビン。朝7時20分の朝食。

そのあと9時まで時間が余って仕方がない。結局、そば粉(信州もの)1キロ550円と利休箸10膳850円也を2ヶ買った。そば粉のことはまたの機会にまわして箸の紹介をすると、桎目がきれいに通っていて、実に気持のよい箸であった。もし、そこそこのレベルのレストラン(たとえばフランス料理店など)があって、フォークとナイフの他にこんな箸が添えられていたら、グッと高級感を増すにちがいないと思うような箸であった。

話が横へいったが、写真は築地市場内の中央部分にあったゴミの山。今ではこれだけプラスチックが活躍している。ゴミだらけということではなく、掃除中であった。朝の7～

8時頃から、仕舞いの掃除が始まっていた。  
(いとのり さだよし)

築地市場のゴミの山



## ARPA・K (株)地域計画・建築研究所

ARCHITECTS, REGIONAL PLANNERS & ASSOCIATES, KYOTO

本社	〒600	京都市下京区四条通り高倉西入ル立売西町82 (大和銀行京都ビル8階)	TEL(075)221-5132(代)
京都事務所	〒540	大阪市東区石町1丁目1番地 (天満橋千代田ビル2号館)	TEL(06)942-5732(代)
大阪事務所	〒460	名古屋市中区丸の内3丁目18番30号 (ツボウチビル6階)	TEL(052)962-1224
名古屋事務所	〒402	東京都港区芝大門2-3-14 (一松ビル1号館402)	TEL(03)437-3405(代)
東京事務所	〒810	福岡市中央区天神1丁目15番1号 (日之出ビル6階)	TEL(092)731-7671
九州地域計画 研究所			